日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
教会教育部

教会学校　教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1．みことば

祈りながら今週のテキスト（聖書箇所）を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、憶えましょう。

2．主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例　○：イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。（×：カナの婚礼と奇跡）

3．教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4．メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。
◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト　http://ce.ag-j.or.jp/

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教　師　ノ　―　ト

日付	2012年　6月　3日
単元	サムエル記・2
テーマ	友を愛する
タイトル	ヨナタンとダビデの友情
テキスト	Ⅰサムエル18－20章
参照箇所	Ⅰサムエル14章

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
箴言17：17　or　マルコ12：31

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
小学科下級3巻－主題4－4課「ダビデとヨナタン」　小学科上級3巻－主題2－4課「良い友だちとして」

❑導入

今日はダビデの大切な友だちのお話です。みなさんにも大切なお友だちがいますね。みなさんは、お友だちを愛していますか？もし、愛しているなら、お友だちのために、何をすればよいでしょうか？

❑ポイント1　ヨナタンは自分と同じほどにダビデを愛しました（18：1－4）

サウルは、ゴリヤテを倒したダビデを、とても気に入りました。戦いの後、サウルとダビデが話し終わると、「ヨナタンの心はダビデの心に結びついた」と書いてあります。ヨナタンというのは、サウルの息子です。ヨナタンは、自分を愛するように、ダビデを愛するようになりました。王の息子であるヨナタンと、王のそばで仕える家来であるダビデの間に、固い友情が生まれたのです。

ヨナタンとダビデは、固い友情の約束をしました。ヨナタンは、ダビデに自分の上着・よろいかぶと・剣・弓・帯をあげました。13章19－23節を読むと、武器やよろいが非常に貴重なものであったことが分かります。それはまさに、愛のしるしでした。

✎第1サムエル記14章を読みましょう。ヨナタンも、ダビデと同様に、神さまを信頼して戦う勇士だったことが分かります。ゴリヤテとの戦いぶりを見て、ヨナタンはダビデを愛するようになりました。同じ「信仰の勇士」として、波長がピッタリ合ったのでしょう。

❑ポイント2　サウルはダビデを殺そうとしました（18：5－19：10）

ダビデはサウルの家来として、様々な戦地に遣わされましたが、その全ての戦いに勝利しました。ペリシテ人を倒して町にもどったときには、町中がサウルやダビデを大喜びで迎えました。女の人たちは、踊りながら「サウルは千を打ち、ダビデは万を打った」と歌いました。サウル王は、これを聞いて、カンカンに怒りました。王様よりも、ダビデの方が何倍も強いと、バカにされているように感じたのでしょう。それからというもの、サウルは、ダビデのことを疑いの目で見るようになりました。ダビデは何も悪いことをしていません。なのに、「いつか王の座を奪われてしまうのでは・・・」と心配し、憎むようになったのです。

サウルは何度もダビデを殺そうとしました。ある日、ダビデが、具合の悪くなったサウルのために、琴をひいていると、サウルはダビデを突き刺そうと、槍を投げましたがダビデは身をかわして逃げました。また、サウルはダビデに「自分の娘と結婚させてやるから、かわりに強いペリシテ人を倒して来い」と言いました。ダビデがペリシテ人に殺されればいいと考えたからです。しかし、そんなことが2度あっても、ダビデはペリシテ人に勝利し、ますます人気がでてきました。神さまがダビデとともにおられたのです。

それでも再び、サウルはダビデを殺す計画をたてました。それを聞いた息子ヨナタンは、勇気を出して父サウルを説得しました。ヨナタンは、ダビデを友だちとして愛していたからです。「ダビデは何も悪いことをしていません。むしろ、お父さんの役に立つことをしているではありませんか。それなのに、彼を殺して

はなりません。罪を犯さないでください。」 それを聞いたサウルは、心を動かされて、「ダビデを殺さない」と神さまに誓いました。しかし、時が経つと、サウルはまた何度もダビデの命をねらいました。

☞ここでは詳細を省略しましたが、サウルは何度もダビデを殺す計画をたてました。教師は省略した箇所についても、よく読んでおきましょう。

❑ポイント3　ヨナタンはダビデを助けました（20：1－42）

ダビデは、サウルに隠れて、ヨナタンに会いに行きました。そして「私は何も悪いことをしていません。なのに、どうしてあなたのお父さんは、私を殺そうとするのですか！？」と言いました。ヨナタンは「あなたを助けるためなら、何でもしますから言って下さい」と言いました。

そこでダビデは、「次の日から始まるお祭りで、サウルがまだ自分を殺そうとしているかどうか確かめて欲しい」とヨナタンにお願いしました。そして、その結果を知らせる合図を打合せしました。ヨナタンが矢を放ち、子どもに「行って矢を見つけて来い」と言います。ヨナタンが、その子どもに「矢はおまえのこちら側にある」と言ったら、サウルがもうダビデを殺そうとしていない（安全）という合図です。反対に、「矢はおまえの向こう側にある」と言ったら、まだ殺そうとしていること（危険）を知らせる合図です。

お祭りの日、サウルはすごく怒っていました。「ダビデのヤツ！私の家来なのに、パーティーを欠席するとは、なんたる無礼者！」 そこでヨナタンは「お父さんは、なぜダビデを殺そうとするのですか！？あの人は何も悪いことをしていないではないですか！」と必死で説得しました。すると、サウルはヨナタンに槍を投げつけて殺そうとしました。ヨナタンは、なんとか助かりましたが、これでサウルがダビデを殺そうとしていることが、はっきり分かりました。

次の朝、ヨナタンはダビデと打合わせた時刻に野原に出て行きました。そして矢を放ち「矢は、おまえの向こう側だ」と言いました。隠れて見ていたダビデには、その意味がわかりました。彼は出て来て、地にひれ伏し、ヨナタンに3度礼をしました。「約束どおり助けてくれてありがとう」という意味です。ダビデは、これから逃亡生活をしなければなりません。サウルの息子である親友ヨナタンに、もう会うことはできないかもしれません。ふたりは口づけして、抱き合って泣き、ダビデはいっそう激しく泣きました。

✎ヨナタンは、サウルの息子です。父親より、ダビデの味方をするのは、つらいことだったでしょう。それに、ダビデが死ねば、王子であるヨナタンは次の王様になれたかもしれません。それでもヨナタンは、正しい方の味方をしました。別れる時に泣いたヨナタンとダビデの気持ちを想像してみましょう。

❑結論　ヨナタンは、父サウル王からダビデを助けました

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

ヨナタンは、命がけでダビデを守りました。彼はダビデを自分と同じほどに愛していたのです。あなたは、自分と同じようにお友だちを愛することができますか？自分と同じように愛するとは、どういうことでしょうか？あなたは、お友だちのために、何ができるでしょうか？（福音を伝える、困っているとき助ける、ただ一緒にいてあげる、自分のして欲しいことをする、優しい言葉で話す、教会にさそう、食べ物を分けるなど、自分たちで考え、話し合って、今日から実行できるように決心しましょう）。

ダビデは何も悪いことをしていないのに、サウルに殺されそうになりました。あなたの身の回りにも、何もしていないのに、いじめられたり、仲間はずれにされたり、悪口を言われて、悲しんでいる人はいませんか？あなたも勇気を出して、その人たちのお友だちになりましょう。ヨナタンは、自分の父に殺されるかもしれないのに、正しいほう（ダビデ）の味方をしました。もっというと、ダビデはヨナタンのライバルでした（父の王位を継承する）。それなのに、ダビデとの友情を貫いたのです。

イエスさまは、私たちの最高の友だちです。あなたが困ったとき、ひとりぼっちのとき、どんな状態でも、あなたと一緒にいて、あなたの見方になってくれます。いつでも、守り、助けてくれます。自分の命よりも、あなたを大切にしてくださったお方です。あなたも、イエスさまという最高の友だちを愛しましょう。イエスさまに、相談したり、感謝したり、あなたの気持ちを何でもお話しましょう。

教　師　ノ　―　ト

日付	2012年　6月10日
単元	サムエル記・2
テーマ	自分で復讐せず、神にゆだねる
タイトル	さばきを神さまにゆだねたダビデ
テキスト	Ⅰサムエル24章、26：1－12
参照箇所	

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
ローマ12：21　or　ルカ6：27b～28　or　Ⅰテサロニケ5：15

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
小学科級3巻-主題4-6課「サウルに手を出さないダビデ」　小学上級3巻-主題2-12課「苦しめられた時」

❑導入

ダビデはサウルに恨まれ、荒野を逃亡する生活をすることになってしまいました。みなさんだったら、何も悪いことをしたわけではないのに、殺されそうになって、逃げ回る間、どんな気持ちになるでしょうか？自分は悪いことをしていないのに、命をねらわれるのはとてもつらかったでしょう。また、相手は国の王様ですから、逃げるのも大変だったでしょう。その頃、ダビデには約600人のともに戦う仲間ができていました。彼らは、ほら穴に身を隠すことが多かったようです（22：1-2、23：13参照）。

❑ポイント1　ダビデはサウルに復讐しませんでした（24：1－7）

ダビデたちが、ほら穴の中に隠れていたときのことです。だれかが、サウル王に「ダビデはエン・ゲディの荒野にいます」と知らせました。そこでサウル王は、イスラエル全体の中から強い兵隊を3000人も選抜し、ダビデを殺しに向かいました。

サウルは、ダビデを捜している間に、トイレに行きたくなりました。そして、なんと用を足すために、ダビデたちが隠れているほら穴に入ってきたのです。奥の方にいたダビデとその部下は、それに気がつきました。サウルは気がついていないようです。その時、部下のひとりがダビデにささやきました。「チャンスです！サウルに復讐できるように、神さまがチャンスを与えてくださったのです。」

ところがダビデは、サウルを殺しませんでした。代わりに、気づかれないように、そっとサウルの上着のすそを切り取るだけにしました。そして、部下たちに言いました。「サウルは神さまに油そそがれた王です。そのサウルに、私が仕返しするということは、私が神さまに逆らうことになります。それは、絶対にできません。」 こうして、部下たちにも、サウルを襲うことを許しませんでした。何も知らないサウルは、ほら穴から出て行きました。

☆サウルが3000人の精鋭を連れて行ったのはなぜだと思いますか？　ダビデを本気で殺したいという気持ちの表れ・ダビデの強さを恐れていたから・ダビデには神さまがついているのを知っていたから･･･等。

❑ポイント2　ダビデはサウルに説明しました（24：8－22）

ダビデもほら穴から出て行き、サウルのうしろから、「王よ」と呼びかけました。サウルがうしろを振り向くと、ダビデは地にひれ伏して、礼をしました。ダビデは言いました。「あなたはなぜ、『ダビデがあなたに害を加えようとしている。』と言う人のうわさを信じられるのですか。実はさっき、ほら穴で私は、あなたのすぐそばにいたのです。ある者はあなたを殺そうと言ったのですが、私は『神さまが油注がれた王に手を下してはならない』と言って、襲いかかることを許しませんでした。その証拠に、どうか、私の手にあるあなたの上着のすそをよくご覧ください。私はあなたの上着のすそを切り取りましたが、あなたを殺しはしませんでした。私は、あなたに害を加える気など一切ないことを知ってください。ですから、あなたも私を殺そうとする必要などないではありませんか。どうか、神さまが、正しいさばきをしてくださいますように。

私は神さまのさばきを信頼しますから、自分であなたに復讐することはしません。」
　これを聞いて、サウルは「わが子ダビデよ。」と声をあげて泣きました。そしてダビデに「あなたは私より正しい。私はあなたに悪いしうちをした。それなのに、私に仕返しをしなかったとは・・・。あなたが私に悪い思いを持っていないということがハッキリわかった。」と言いました。そして「あなたが必ず王になり、あなたの手によってイスラエル王国が確立することを、私は今、確かに知った。」とまで言ったのです。その後、ふたりはそれぞれ帰りました。

❑ポイント3　ダビデは、サウルを神さまにゆだねました（26：1－12）

　しかし、またサウルは、ダビデを捜し出して殺そうとします。3000人の精鋭を率いて、ジフの荒野にダビデを求めて下って行きました。
　ダビデはそれを察知しました。そして、逆にサウルたちが陣を敷いている場所をつきとめました。夜、ダビデと甥のアビシャイは、そこにこっそり行ってみました。彼らは、サウルのテントの中にもぐりこみました。サウルはぐっすり眠っていて、彼の槍が、その枕もとの地面に突き刺してありました。他の兵士たちも、その回りに眠っていて、だれもダビデたちに気がつきません。
　アビシャイはダビデに言いました。「神はきょう、あなたの敵をあなたの手に渡されました。どうぞ私に、あの槍で彼を一気に地に刺し殺させてください。」 しかしダビデはそれを許しませんでした。理由は、1回目のときと同じです。「殺してはならない。主に油そそがれた方に手を下して、だれが無罪でおられよう。主は生きておられる。神さまが正しくサウルを裁き、必要なら復讐をしてくださる。しかし、私たちが復讐をしてはならない。」 そこで、ダビデはサウルの枕もとの槍と水差しだけを取って立ち去りました。神さまが守ってくださったので、だれにも見つかりませんでした。

✎引き続き、26章13-25節にダビデとサウルのやり取りがありますが、省略しました。内容は1回目ときとほぼ同様です。さばきを神さまにゆだねたダビデの信仰を学びましょう。

❑結論　ダビデは、自分でサウルに復讐せず、神さまにゆだねました

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

　あなたは、お友だちや兄弟姉妹に「仕返ししたい」と思ったことはありませんか？自分が相手からイヤなことをされたら、誰でも「やりかえしたい」「相手が先にやったんだ」という思いを持ってしまいます。ダビデはサウルに対して何も悪いことはしていませんでした。それなのに、ダビデはサウルに殺されそうになって、荒野を逃げ回る生活をしなければならなくなりました。そんなとき、サウルに復讐をする絶好のチャンスがやってきました。しかし、ダビデは自分で復讐しないで、神さまの手にゆだねました。あなたは、人から傷つけられたとき、ひどいことをされたとき、どうしたらよいのでしょうか？
　公平で正しいさばきをしてくださる神さまを、信じてゆだねましょう。神さまは、すべてのことをご存じです。だから、あなたが正しいことをしていれば、絶対に損をすることはありません。たとえ、その時、あなたが不公平に感じたとしても、必ず神さまは、正しい人を祝福し、悪を懲らしめられます。神さまは正しいさばきをなさいます。ですから、あなたは、悪をもって悪に復讐する必要がないのです。神さまの前に正しく歩みましょう。そして神さまにお任せすればよいのです。復讐は、必要であれば、神さまがしてくださいます。むしろ、その相手を愛し、良いことでお返ししましょう（ローマ12：17－21、ルカ6：27－28、Iテサロニケ5：15）。もちろん、あなたが正しいなら、きちんとそれを主張すべきです。しかし、激しい言葉や暴力で主張してはいけません。ダビデはつらいとき、神さまに祈りました（詩篇）。心にある憎しみは、人に対してでなく、神さまに向けて祈ることがゆるされています。公平で正しいさばきをしてくださる神さまを、信じてゆだねましょう。

教　師　ノ　―　ト

日付	2012年　6月17日
単元	サムエル記・2
テーマ	罪を犯してしまったら、素直に告白する
タイトル	罪を告白したダビデ
テキスト	II サムエル11－12章
参照箇所	詩篇51篇

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
　Iヨハネ1：9　or　詩篇51：17

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）

❑導入　ダビデは王になりました

　サウルとその息子たち（ヨナタンも）はペリシテとの戦いで死にました（第1サムエル31章）。第2サムエル記は、ダビデがサウルの死を聞いて悲しむ記事から始まります。1−2章では、その後、ダビデはまずユダ（南の部族）の王となります。そして5−6章では、全部族を統治し、王国の首都をエルサレムの町に定めます。契約の箱もエルサレムに持ち帰りました。30歳で王になり、40年間、王であったとあります（5：4）。神さまは、ダビデ王を大いに祝福されました。みなさんも、ダビデが、みことばに従う、強くて正しい王様だと知っているでしょう。今日のお話は、ダビデが王になってからおよそ20年経ったころのことです。正義をもって国を治めていたダビデ王ですが、大きな罪を犯してしまいます。

❑ポイント1　ダビデは罪を犯しました（11章）

　ある夕暮れ時、ダビデが王宮の屋上を歩いていると、ひとりの非常に美しい女性が見えました。ダビデは、その女性を好きになりました。家来に調べさせると、彼女は、バテ・シェバという名で、ダビデの部下であるウリヤという人と、もう結婚していることがわかりました。

※ダビデの罪は…、ウリヤの妻と知りながらバテ・シェバを召し入れた→妊娠した子を夫婦のものと思わせるために、ウリヤを戦地から呼び戻したが、妻のところに戻らないので、彼を戦死させるように仕組んだ…ということです。どの程度詳しく説明するかは、教師が慎重に判断してください。

例①しかし、ダビデは、がまんできず、バテ・シェバを王宮に呼び寄せ、ふたりでひと晩いっしょに過ごしてしまいました。ダビデは、人の奥さんを奪おうとする罪を犯したのです。しかし、ダビデの罪は、それでは終わりませんでした。なんと、ウリヤを激しい戦地に行かせ、わざと死なせようとしたのです。ウリヤはダビデの軍に忠実に仕える兵士でした。まず、ダビデはウリヤを戦地から呼び戻しました。そしてもう一度戦地に送り返しました。その時、ダビデ軍の長であるヨアブに手紙を書き、ウリヤに持たせました。その手紙にはこう書かれてありました。「ウリヤを激戦の真正面に出し、彼を残してあなたがたは退き、彼が打たれて死ぬようにせよ。」 ヨアブはその通りにし、ウリヤは戦死しました。これは恐ろしい計画殺人です。ダビデは、バテ・シェバに対する罪をごまかすために、王の権力を利用してウリヤを殺すという、さらに大きな罪を犯したのです。しばらく経ってから、ダビデはバテ・シェバと結婚しました。

例②どうしてもバテ・シェバと結婚したかったダビデは、恐ろしいことを考えました。夫ウリヤが敵に殺されるように、わざと激しい戦地に送ったのです。ダビデは、軍隊の長ヨアブに手紙を書いて、「ウリヤを激戦の真正面に出し、その上で、彼だけ残して他の兵は逃げなさい。彼が敵にやられて死ぬように仕組みなさい」と命令しました。ヨアブはその通りにし、ウリヤは死んでしまいました。これは恐ろしい計画殺人です。ダビデは、奥さんを奪うために、王の権力を利用してウリヤを殺すという、大きな罪を犯したのです。しばらく経ってから、ダビデはバテ・シェバと結婚しました。

❑ポイント2　神さまはナタンをとおしてダビデの罪をしめしました（12：1－12）

神さまは、ナタンという人を、ダビデのところに遣わされました。ナタンはダビデに、金持ちの人が、貧しい人の飼っていた大切な羊を取り上げた話をしました（1−4節をよく読んでください）。

すると、ダビデは、その話に出てくる金持ちの男に対して激しい怒りを燃やし、ナタンに言いました。「そんなことをした男は死刑だ！あわれみの心もなく、そんなことをしたのだから、その雌の子羊を4倍にして償わなければならない。」

ナタンはすかさず、ダビデに言いました。「あなたがその男です！」 ナタンは神さまのことばを語りました。「主はこう仰せられる。『わたしはあなたを、イスラエルの王とし、サウルの手からあなたを救い出した。さらに、家や奥さん、イスラエル全土さえも、あなたに与えた。それでも少ないというのなら、もっと多くのものを増し加えたであろう。それなのに、どうしてあなたは、わたしの目の前に悪を行なったのか。あなたはウリヤを剣で打ち、その妻を自分の妻にした。あなたが彼をアモン人の剣で切り殺したのだ。』 」

❑ポイント3　ダビデは罪を告白しました（12：13－31、詩篇51篇）

それを聞いたダビデは、すぐにナタンに「私は主に対して罪を犯してしまいました」と言いました。正直に自分の罪を告白したのです。

詩篇51篇は、ダビデが、この時の悔い改めの気持ちを表現したものです。「私は罪を犯し、悪を行ないました（4節）」「私を洗ってください。そうすれば私は雪よりも白くなりましょう（7節）」「神へのいけにえは、砕かれたたましい。砕かれた、悔いた心。あなたはそれをさげすまれません」・・・と、ダビデは自分の罪を素直に悔改めて祈ったのです。

神さまは正直に罪を告白したダビデを赦してくださいました。しかし、神さまの言われたとおり、ダビデとバテ・シェバの間に生まれた子どもは死にました。

❑結論　ダビデは罪を犯しましたが、それを正直に告白しました

❑適用　強制的ではなく、愛をもって、悔改めに導きましょう。Iヨハネ1：9をしっかり伝えましょう。

罪を犯してしまったら、ダビデのように正直に告白しましょう。神さまは、必ずゆるしてくださいます（Iヨハネ1：9）。（小グループ・分級で告白できない場合は、個人的にお話しましょう。なかなか告白できない場合は、時間をかけて、十字架の恵みをたっぷり伝えましょう。）イエスさまは、私たちの罪の身代わりに、十字架で命の代価をはらってくださいました。罪がゆるされるということは、すばらしい恵みです。イエスさまの愛を信じて、あなたの心の中にある罪を、今すべて告白しましょう。あなたの心は真っ白になります。必ずゆるして下さるのですから、私たちがすることは、悔改めて告白することだけです。イエスさまの方が先に十字架にかかってくださったのです。ですから、あなたが告白せずに、心を閉ざして罪を隠していたら、イエスさまは悲しまれます。正直な心を喜んで受け取ってくださいます。

ダビデは、ひとつの罪を犯して、それをごまかすために、もっと重大な罪を犯してしまいました。これからも、罪を犯してしまったときは、すぐに悔改めのお祈りをしましょう。隠したり、ごまかしたりしようとすると、どんどん深みにはまってしまいます。

私たちは、罪を犯してしまうものです。だれでも、悔改め、神さまに赦してもらいながら、少しずつ成長します。教会の先生だって同じです。だから、自分の心に罪があることに気がついたら、いつでも教会の先生にすぐ相談しましょう。あなたの話をやさしく聞いて、一緒に祈ってくれるはずです。ひとりで悩む必要はありません。

教　師　ノ　―　ト

日付	2012年　6月24日
単元	サムエル記・2
テーマ	神の使命のために必要なものは、神に求める
タイトル	知恵をいただいたソロモン
テキスト	I 列王記2：1－12、3章
参照箇所	II サムエル7章

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
箴言9：10　or　ヤコブ1：5

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）

❑導入

「ダビデは30歳で王となり、40年間王であった」と書いてあります。今日のお話は、ダビデが死ぬ間際のところから始まります。

❑ポイント1　ソロモンは王になりました（2：1－12）

ダビデはもう歳をとっていました。そこで、彼は息子のソロモンに王位を継承することにしました。ダビデは、ソロモンに言い聞かせました。「私はもう死が近い。ソロモン、あなたはイスラエルの王として、強く、男らしくありなさい。主のみことばに従って、主の道を歩みなさい。それは、あなたが何をしても、どこへ行っても、栄えるためです。そうすれば、神さまは約束どおり、私たちの子孫とイスラエルを祝福してくださいます。」

じつは、ダビデが王になった頃、こんなことがありました（II サムエル7章）。ダビデは、「自分は立派な王宮に住んでいるのだから、神さまのために、すばらしい神殿を建てたい」と考えました。しかし、神さまは「神殿を建てるのはダビデではない。ソロモンが後継ぎになって神殿を建てるのだ」と言われました。

やがて、40年間イスラエルを治めた正義の王ダビデは死に、息子ソロモンが父の王位につきました。

❑ポイント2　ソロモンは知恵を求めました（3：1－15）

ある夜、神さまは、ソロモンの夢の中に現れてくださいました。そして、ソロモンに「あなたに何を与えようか。欲しいものがあったら私に願いなさい」とおっしゃいました。

ソロモンは何と答えたでしょう？　彼は、「神さまは、私をイスラエルの王にしてくださいましたが、私はまだまだ未熟な者です。神さまが与えてくださったこの国を、正しく治めることができるように、知恵をください。そうすれば、善悪を判断し、この国の多くの人々を、正しく裁くことができますから」と言いました。

ソロモンの願いは神さまの御心にかないました。神さまは、ソロモンにおっしゃいました。「あなたは自分のためのもの（長寿・富・敵のいのちなど）を求めず、むしろ、神と人々のために、善悪を判断する知恵を求めたので、今、私はあなたの言ったとおり、それを与えよう。」 神さまはソロモンの願いを喜ばれたのです。そして、さらにソロモンが願わなかった富と誉れと長寿も与えてくださいました。神さまは「あなたの生きているかぎり、王たちの中であなたに並ぶ者はひとりもないであろう」とおっしゃいました。

❑ポイント3　ソロモンは神さまからいただいた知恵で国を治めました（3：16－28）

神さまからいただいた知恵がどんなにすばらしいものであったか、よくわかるできごとがありました。

ある日、2人の女の人が、ひとりの小さな赤ちゃんを連れて、ソロモンのところに来ました。ひとりの女の人が訴えました。「王様、私とこの女とは同じ家に住んでおります。私が子どもを産んで3日たつと、同じ家で、この女も子どもを産みました。ところが、夜の間に、この女の産んだ子が死にました。この女が

自分の子の上に乗ってしまったからです。そこで、この女は夜中に起きて、私が眠っている間に、こっそり私の赤ちゃんを取って、死んだ赤ちゃんと取り替えたのです。ですから、生きているのが私の赤ちゃんなのです！」 しかし、もうひとりの女は「いいえ、生きているのが私の子で、死んでいるのはあなたの子です。」と訴えています。こうして、２人の女たちは、ソロモンの前で、言い争っていました。

どうやって、解決すればよいのでしょう？ソロモンは、「剣をここに持って来なさい。」と命じた。そして、「生きている子どもを二つに断ち切り、半分をこちらに、半分をそちらに与えなさい。」 すると、ひとりの女の人は、あわてて言いました。「王様、その子を殺さないでください！どうか、その生きている子をあの女にあげてください！」 しかし、もうひとりの女は、「それを私のものにも、あなたのものにもしないで、断ち切ってください。」と言いました。

そこで王は落ち着いて、結論を言い渡しました。「生きている赤ちゃんを初めの女に与えなさい。決してその子を殺してはならない。彼女がその子の母親なのだ。」 本当の母親は、自分の赤ちゃんが刀で切られるのを、ゆるすわけがありません。ですから、「殺さないで」と言ったお母さんが、本物というわけです。

ソロモンがこんなびっくりするような方法で、難しい問題を解決できたのは、神さまからいただいた知恵のおかげです。イスラエルの人々はみんな、このようなソロモンの知恵をみて、王を尊敬しました。

❑結論　ソロモンは神さまから知恵をいただきました

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

神さまのご用をするために必要なものは、神さまに求めましょう。本当に与えられます。

みなさんはいつも、神さまにどんなお願いをしていますか？ソロモンは、神さまから「何が欲しい？」と聞かれたとき、神さまに喜ばれる王となるために「善悪を判断する知恵」を求めました。その願いは神さまのみこころにかなって、ソロモンは本当にスゴイ知恵をいただきました。神さまは、ソロモンを王様に任命しましたが、同じように、あなたも神さまから大切な役割を任命されています。あなたの役割は何でしょうか？（家族や友だちに福音を伝える・リーダーになる・大きな声で賛美する・牧師・伝道師・社会の役に立つ仕事をする、など）そのために必要な能力は何でしょうか？（知恵・愛・学力・やさしさ・お金、など）それを神さまに求めましょう。必ず神さまが与えてくださいます。神さまは、私たちのため（利己的・ワガママな願い）ではなく、神さまのためのお願いを喜んで必ず聞いてくださいます。

聖書を読んで、祈りましょう。知恵は神さまからいただくものです。

何でも知っている神さまに比べて、私たちの知恵は足りません。神さまは最高・最善のことをご存じです。それを教えてもらいましょう。また聖書には「主を恐れることは、知恵の初め」（詩篇１１１：１０、箴言９：１０など）と書いてあります。神さまを信じることが、知恵の出発点なのです。神さまなしに、正しい判断はできません。また、「主のことばを退けたからには、彼らに何の知恵があろう」（エレミヤ8:9）とあるように、本当の知恵は、聖書に聞き従うことなのです。幸せに生きる知恵が欲しいと願う人は、聖書を読んで、祈りましょう。